

どう生かす「環境基本計画」

近藤 浩 議員 (改革)

町長 町民、事業者と協働して計画を推進



21年3月発行の環境基本計画

質問 町では、「環境基本計画」をまとめ、昨年3月に発表しました。それは、よりよい環境を未来に引き継ぐことや問題を解決するために、町・町民・事業者が一体となって行動し、取り組むための指針であるとしている。

そして、環境基本条例の理念を具現化し、総合的かつ計画的推進を図るとしているが、目標の30年度に向け、この計画をどう生かしていくのか、町長の所見を伺うものである。

町長 環境基本計画の推進状況は、各種関連事業の調査をもとに、環境審議会で監視され、出された意見を次年度以降に反映させる体制となっている。

質問 住宅用環境配慮型機器購入費助成金を初め、緑地保全のための用地取得、狭山池周辺整備計画など環境基本計画を具体化するため関連予算を組んだ。健康で安全かつ快適に暮らすことができる良好な環境を確保し、将来の世代に引き継ぐことが私達の大切な使命であると考え、行政が先行し、町民、事業者と協働して計画を推進する。

アンネのバラの碑設置を

谷 四男美 議員 (住民)



町長 設置は考えていないが、平和への願いを伝えていく

質問 役場入り口にはアンネのバラが植えられている。若い人達にはアンネのバラって何だろうと知らない人もいます。せっかくの素晴らしい企画でもあるので、この場所にもアンネのバラの由来とアンネの伝えたかったことを記した小さな碑を設置してはどうか。戦争によって人の命が奪われるという悲劇を人類が常に忘れないため、しっかりとひっそりと生きたアンネの意思をこの瑞穂町のバラによって伝えたらどうか、所見を伺う。



平和祈念碑前に植えられたアンネ・フランクのバラ

町長 言い伝えることの大切さと事実であることは理解するが、アンネのバラが当地に由来するものではなく、また植樹個所は増やしており、由来など説明した看板も設置している状況から、碑の設置は考えていない。

第二次世界大戦から年月がたち、平和であることの大切さについて関心が薄らぎつつある。戦争で亡くなられた多くの人々の命と引き換えに今の繁栄があることを念頭に、アンネのバラに込められた平和への願いを、今後も町民に広く伝えていく。

こんな質問もありました
福祉作業所に入る
町道の拡幅は。

町長 狭山池周辺整備計画の区域として、全体的な道路網の見直しが必要と考える。

事業仕分けの有効な活用を提案する

齋藤 成宏 議員 (民主)



町長 行政評価システムが同様の視点を持つ

質問 昨年、行政刷新会議が実施した事業仕分けは、国の予算、制度、行政のあり方を刷新するために実施され、全国的に大きな反響を呼んだ。町も予算編成の際には、既存の事業であったも、そもそも現時点で必要なのか、透明性は確保されているか、常に住民の目線で見直す仕組み作りが重要である。そこで町長に次の2点を伺う。

問① 現在の行政評価システムは、各種事業の行政評価システムが担っている。このシステムは行政評価委員会を設置し、町民や企業役員の方で構成され、行政評価の監視に加え、行政改革や補助金の適正化についても意見を頂いている。

問② 庁内事業仕分けも有効な取り組みと考

質問 これからの社会を担う子どもは、家庭の宝のみならず国の宝でもある。健やかに心豊かに育てたい。しかし、我が国ではVPDにより、健康を損ねた子どもが多い。このことから、予防接種の種類や接種スケジュール等の情報提供、ヒブや小児肺炎球菌等任意接種ワクチンの公費助成や任意から定期接種へとするよう国へ働きかけるなど、ワクチン接種率を上げる施策を積極的に取り組むべきである。町長の所見を伺う。

町長 予防接種については、その種類、日程並びに接種を受けられる医療機関を、保健事業日程表として全戸配布し、周知を図っている。

22年度、新たにVPDのひとつである細菌性髄膜炎の予防に有効なヒブワクチン接種の公費助成を開始する。これに伴い、接種内容や医療機関などの情報をお知らせする際には、通知を分かりやすくするなど、工夫に努める。

また、様々な機会を捉え、国や都に任意接種ワクチンの定期接種化を働きかけていく。

VPD (ワクチンで防げる病気)から子どもたちを守る施策の積極的な取り組みを

下野 義子 議員 (公明)

町長 ヒブワクチン接種の公費助成を開始



保健センターでの予防接種(ポリオ)

質問 これからの社会を担う子どもは、家庭の宝のみならず国の宝でもある。健やかに心豊かに育てたい。しかし、我が国ではVPDにより、健康を損ねた子どもが多い。このことから、予防接種の種類や接種スケジュール等の情報提供、ヒブや小児肺炎球菌等任意接種ワクチンの公費助成や任意から定期接種へとするよう国へ働きかけるなど、ワクチン接種率を上げる施策を積極的に取り組むべきである。町長の所見を伺う。

町長 予防接種については、その種類、日程並びに接種を受けられる医療機関を、保健事業日程表として全戸配布し、周知を図っている。

22年度、新たにVPDのひとつである細菌性髄膜炎の予防に有効なヒブワクチン接種の公費助成を開始する。これに伴い、接種内容や医療機関などの情報をお知らせする際には、通知を分かりやすくするなど、工夫に努める。

また、様々な機会を捉え、国や都に任意接種ワクチンの定期接種化を働きかけていく。



行政評価システムの事務事業評価シート

質問 昨年、行政刷新会議が実施した事業仕分けは、国の予算、制度、行政のあり方を刷新するために実施され、全国的に大きな反響を呼んだ。町も予算編成の際には、既存の事業であったも、そもそも現時点で必要なのか、透明性は確保されているか、常に住民の目線で見直す仕組み作りが重要である。そこで町長に次の2点を伺う。

問① 現在の行政評価システムは、各種事業の行政評価システムが担っている。このシステムは行政評価委員会を設置し、町民や企業役員の方で構成され、行政評価の監視に加え、行政改革や補助金の適正化についても意見を頂いている。

問② 庁内事業仕分けも有効な取り組みと考